

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20330156

研究課題名（和文） 卓越的技能の育成における「わざ」言語を用いた指導モデルの構築

研究課題名（英文） Exploring the role of Craft Languages for developing exceptional performance

研究代表者

生田 久美子（IKUTA KUMIKO）

東北大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：80212744

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、スポーツ・看護・芸能領域の伝承場面における修辭的な言語（わざ言語）の分析を通して、「わざ」の伝承における「わざ言語」の意義を問い直し、学びの可能性を考究することにある。実際に卓越的技能の指導現場に触れている「わざ言語」実践者を対象とし、「わざ言語」が生起する文脈や役割の分析が行われた。本研究の成果として、行為の発現を促す役割、身体感覚の共有の役割、及び到達した状態の感覚へといざなう役割、を確認した点があげられる。

研究成果の概要（英文）：

This research examines the potential of Waza languages, “craft languages”, for developing prerequisites of expert knowledge in sport, performing arts and nursing. The results indicate that Waza languages facilitate flow and indirectly learning.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2009年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2010年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：卓越的技能, わざ言語, 伝統芸能, スポーツ, 看護, 比喩的指導言語

## 1. 研究開始当初の背景

これまで、学校教育、スポーツ、看護、及び芸能領域における指導に関する研究では、「言語－経験」という二元図式的な教育概念上の対立から、情報としての知識詰め込み型教育と、自由放任的な経験主義教育という教育実践上の対立を生み出している。近年の「ゆとり教育」－「学力低下論争」もこの図式の中での振り子運動的な閉塞状況を免れ

ていない。また、教育学、看護学、及び認知科学分野においては、人間の「暗黙知」に対する注目が長らくなされているにもかかわらず、それもまた「言語－経験」の二元図式の実効的な解決策とはなっていない。そのひとつの理由として、教育実践における「暗黙知」は、「体験を通して得られる言語化のできない知識」という、非常に矮小化された体験知として扱われているためである。ここに

は、暗黙知の重要性・必要性を認識しながらも、暗黙知は暗黙知として従来の知、すなわち学力とは異なる種類のものとして位置づけるといふ見方が存在する。その見方ゆえに、「暗黙知」を重視する教育においては単に「体験する」ことにのみ重要性がおかれ、従来の知を重視する教育実践においては従来の「情動的知識の量的蓄積」が求められるという問題性が存在する。こうした問題に対し、本研究代表者（生田）等の研究グループは、1987年以來、一貫して「わざ」による新しい知の在り方に関する研究を継続して行い、わざの視点から教育の諸問題について考究を進めてきた（生田久美子、1987、わざから知る、東京大学出版会）。本研究は、これまでのスポーツ、芸能、及び看護領域における研究を最大限取り入れながら、それを体系的にまとめ直し、わざ言語の構造化を試みることを意図している。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、スポーツ・看護・芸能領域の伝承場面における「わざ」習得に効果的に作用する修辭的な言語（「わざ」言語）の分析を通して、わざが習得されるメカニズムを解明し、同時に、有効な指導言語モデルを構築することにある。

## 3. 研究の方法

スポーツ、看護、芸能領域において優れた指導実践をおさめている指導者及び卓越的技能を発揮している実践者を対象とし、わざ言語体験の関係性に関する詳細について、深層的、半構造的インタビューを行う。

## 4. 研究成果

本研究では、助成期間の3年間に7回の研究会を開催した。各研究会では、「わざ言語」の現場に深くかかわっているエキスパートを招き、「わざ」の伝承場面でどのような「わざ言語」がどのように生起し、どのように学びに作用するのかについて、実際のパフォーマンスを交えながら分析が行われた。三年間の研究会は以下の通りである。

- ・花柳小春（日本舞踊）「わざ」と「ことば」～伝統芸能の「知」を探究する～
- ・中村時蔵（歌舞伎）歌舞伎の「わざ」の継承とは何か～「ことば」体験に注目して～
- ・佐藤三昭（創作和太鼓）創作和太鼓における「わざ言語」の役割～「しむけ」に注目して～
- ・朝原宣治（陸上競技）己の感覚との対話
- ・紙屋克子（看護）看護の技と言語
- ・村上明美（看護）熟練助産師の「分娩介助」のわざ～その人らしく「産む」・その人らしく「誕生」する～
- ・結城匡啓（スピードスケート）選手と共有

## する「わざ」世界

これらの研究会を通し、スポーツ、伝統芸能、看護領域における「わざ言語」は多様な形で生起している点が明らかとなった。具体的には、指導者による「わざ言語」を通して動きを学び感覚を共有すること、および「わざ言語」として書かれた文字を通して、先達や過去の自身と対話し、感覚を共有する点が明らかとなった。更にはともに同じ目標をめざす中で互いの思考、情緒、意識、雰囲気、価値観、そして感覚を共有する点も明らかとなった。

本研究で得られた知見として、伝統芸能、スポーツ、および看護の領域における「わざ言語」の役割は、次の3つに整理される点があげられる。第一に、活動における具体的な動きや行為を指示する役割である。第二に、直接的な動きの支持をこえて、指導者の身体感覚と学習者の身体感覚の協調・共有を促す役割である。第三に、具体的な動きや行為の指示をこえ、更に身体感覚の共有を意図する働きかけをこえ、自らのachievement状態を伝えようとする、いざなう役割である。

本研究の主題である「わざ言語」の分析から、「わざ言語」と「学び」との関係が考究される新たな課題が示唆された。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

1. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama. Achieving a breakthrough in coaching: A Qualitative Analysis of Coaching Expertise of Expert Professional Soccer Coaches in Japan. Proceedings of Congress of the International Association of Physical Education in Higher Education (AIESEP). 2010. 26-29 October, 2010. La Corunna, Spain (in press), 査読有
2. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama. Learning Process to Be an Expert Coach: A Qualitative Analysis of Coaching Expertise of Expert Coaches in Japan. Proceedings of the International Conference for the 30th Anniversary of the JSSE. 9-11 October, 2010. Tokyo, Japan (in press), 査読有
3. 北村勝朗. ゆとり世代を戦力化するための効果的な褒め方・叱り方. 研究開発リーダー49. 2010. 19-24, 査読有
4. 生田久美子「教育を文化的視座から捉えなおすことの意味—『文化』と『思考』に着目して—」、『教育哲学研究』第99号、教育哲学学会、2009年、1-8頁、査読有

5. 生田久美子「〈再考〉教育における『技能』概念—『傾向性』としての『わざ』概念に注目して—」、『第14回 秋田大学教育実践セミナー報告書』秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター、2009年、1-14頁、査読無
6. Katsuro Kitamura, Shigeru Saito, Takahiro Nagayama. Construction of a Mental Model of Coaching of Expert High School Soccer Coaches in Japan: How Do Expert Coaches Enhance Athletes' and Team Performance? *Journal of Applied Sport Psychology* 21, 2009. 475-476, 査読有
7. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito. A Qualitative Analysis of coaching expertise of professional soccer coaches in Japan. *Proceedings of 12<sup>th</sup> World Congress of Sport Psychology*. 16-21, June, 2009. P255-256, 査読有
8. 北村勝朗, 齊藤茂, 永山貴洋. 2009. 教育情報を取り巻く文化・社会的文脈がスポーツ選手の動機づけに及ぼす影響: 日本, 中国, 韓国, ブラジルのスポーツ選手の熟達化過程を対象とした質的分析による日本人に特徴的な動機づけ特質の検討. *教育情報学研究* 8, 1-10, 査読有

[学会発表] (計 21 件)

1. Kumiko IKUTA "Toward the New Form of Knowledge-Some Implications from Experiences in the Japanese Performing Arts," *The Educational Issues in Japan and Italy: From the viewpoint of Art and culture*, in: University of Turin, Italy, 2011. 01. 07
2. 生田久美子 (指定討論者) 「『甘え』の比較人間形成論—土居理論と教育現実のあいだ—」教育思想史学会第20回大会コロキウム2、於: 日本大学文理学部百周年記念館、2010年9月19日・20日
3. 生田久美子 (シンポジスト) 「『わざ』の伝承における『省察』とは何か?—Task か Achievement か?—」、日本教師学会第11回大会シンポジウム「教師学における省察」、於: 兵庫教育大学神戸サテライト、2010年2月27日・28日
4. 北村勝朗. 質的アプローチでみる熟達化過程の変動と安定. *日本スポーツ心理学会第37回大会 シンポジウム「個と集団における変動と安定」シンポジスト* 福山平成大学、2010年11月20日
5. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama. Achieving a breakthrough in coaching: A Qualitative Analysis of Coaching Expertise of Expert Professional Soccer Coaches in Japan. *Congress of the International Association of Physical Education in Higher Education (AIESEP)* 2010. 26-29 October, 2010. La Corunna, Spain
6. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama. Learning Process to Be an Expert Coach: A Qualitative Analysis of Coaching Expertise of Expert Coaches in Japan. *The International Conference for the 30th Anniversary of the JSSE*. 9-11 October, 2010. Tokyo, Japan
7. Takahiro Nagayama, Katsuro Kitamura. An Investigation of High School Rhythmic Gymnasts' Beliefs about Tacit Knowledge. *The International Conference for the 30th Anniversary of the JSSE*. 9-11 October, 2010. Tokyo, Japan
8. 北村勝朗. 永山貴洋. 優れた指導者は指導場面でどのような見通しと判断に基づき指導行動を行っているのか?—エキスパート・スノーボード指導者を対象とした「行為の中の省察」の質的分析—. *日本体育学会第61回大会*. 2010年9月8~10日. 中京大学
9. 永山貴洋. 北村勝朗. 優れた高等学校男子新体操選手のコツ習得に対する認識論的信念の質的分析. *日本体育学会第61回大会*. 2010年9月8~10日. 中京大学
10. 生田久美子 (パネリスト) 「豊かな学びを引き出す授業づくり~Less Teaching, More Learning」、山梨学院大学附属小学校公開研究会シンポジウム、山梨学院大学附属小学校、2009年9月9日
11. 生田久美子 (講演)、野中郁次郎 (主催) 「『わざ』から知る—もうひとつの『知』の形式を求めて—」、日本生産性本部・経営革新委員会講演会、2009年7月4日、日本生産性本部、東京
12. 北村勝朗, 西田保, 杉山哲司, 長谷川悦示, 齊藤茂. *日本スポーツ心理学会第36回大会*. シンポジウム: 内発的動機づけ, 外発的動機づけの再考: 自己決定理論をめぐって. 2009年11月20-22日. 首都大学東京
13. 北村勝朗, 齊藤茂, 永山貴洋. スノーボード・ハーフパイプ競技の動作意識に焦点を当てた熟達者と非熟達者との比較分析. *日本体育学会第60回大会*. 2009年8月26-28日. 於: 広島大学
14. 永山貴洋, 北村勝朗, 齊藤茂. 学習者の相互作用が動作のコツ習得に与える影響の質的分析. *日本体育学会第60回大会*. 2009年8月26-28日. 於: 広島大学
15. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito. A Qualitative Analysis of coaching expertise of professional soccer coaches in Japan. *Proceedings of*

- 12<sup>th</sup> World Congress of Sport Psychology. 16-21, June, 2009. Marrakech, Morocco
16. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito. A Qualitative Analysis of metaphorical expressions of university rowing coaches in Japan. Proceedings of 12<sup>th</sup> World Congress of Sport Psychology. 16-21, June, Marrakech, Morocco, 2009.
17. 北村勝朗, 齊藤茂. Jリーグ監督を対象としたコーチング熟達化過程の質的分析. 日本フットボール学会第6回大会. 2009年2月14-15日. 於: 武蔵大学
18. 北村勝朗, 齊藤茂. 指導での挫折経験は優れた指導者の成長に不可欠なものなのか? プロフェッショナル指導者を対象としたコーチング熟達化過程の質的分析. 日本スポーツ心理学会第35回大会. 2008年11月14-16日. 於: 中京大学
19. 生田久美子 (シンポジスト) 『『知』の一例としての『ケア』』、青山学院大学大学院社会情報学研究科ヒューマンイノベーションコース開設記念連続シンポジウム「ヒューマンイノベーションの現場から」: シンポジウム『『ケアリング』と『教育』の交差点』、於: 津田ホール、2008年11月15日
20. 北村勝朗, 齊藤茂. 指導での挫折経験は優れた指導者の成長に不可欠なものなのか? プロフェッショナル指導者を対象としたコーチング熟達化過程の質的分析. 日本スポーツ心理学会第35回大会. 2008年11月14-16日. 於: 中京大学
21. 北村勝朗, 西田保, 磯貝浩久, 杉山佳生, 伊藤豊彦. 日本, 中国, 韓国, ブラジルのスポーツ選手の熟達化過程の比較からみる動機づけの特徴. 日本スポーツ心理学会第35回大会. シンポジウム: スポーツ動機づけと文化: 日本人の特徴とは. 2008年11月14-16日. 於: 中京大学

[図書] (計2件)

1. 生田久美子・北村勝朗編著, 慶應義塾大学出版会、「わざ言語～感覚の共有を通しての「学び」へ」, 2011年, 1-365ページ
2. 生田久美子「わざの習得」、海保博之・松原望 (監修)、竹村和久・北村英哉・住吉チカ (編)『感情と思考の科学事典』、朝倉書店、2010年、264-265ページ

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

生田 久美子 (IKUTA KUMIKO)  
東北大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号: 80212744

### (2) 研究分担者

北村 勝朗 (KITAMURA KATSURO)  
東北大学・大学院教育情報学研究部・教授  
研究者番号: 50195286

### (3) 連携研究者

前川 幸子 (MAEKAWA YUKIKO)  
甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授  
研究者番号: 30325724

原田 千鶴 (HARADA CHIDURU)  
大分大学・医学部・教授  
研究者番号: 80248971

齊藤 茂 (SAITO SHIGERU)  
松本大学・人間健康学部・講師  
研究者番号: 10454258